



**MORIOKA**  
ROTARY CLUB WEEKLY

第21回例会(12月14日)  
平成31年1月18日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 坂本広行  
川徳デパート内 幹 事 藤村吉隆  
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代) 会 報 吉田幸一  
例 会 日 毎週金曜日12時30分～ クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682  
http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019 (653) 5622

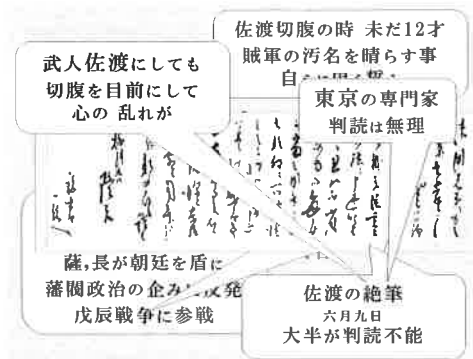
RI会長テーマ BE THE INSPIRATION:インスピレーションになろう…バリー・ラシン  
盛岡RC会長テーマ -80年の歴史と伝統、驚いていこう奉仕と友情-坂本広行



会友卓話

榎山佐渡と原敬

下山 寛 会友



今日は榎山佐渡と原敬について触れてみたいと思います。

戊辰戦争などは未だ150年前のことですが既に私たちの脳裏から忘れ去られようとしております。

原敬は大正年間に郷土から出た総理大臣ですが、当時政界は絶対的に薩長等の藩閥政治が続いており、北奥羽の片田舎の人間の原敬がどうして政界最高峰の総理に上りつめたのでしょうか。

勿論 原敬自身の人間性によることは間違いのないにしても、原敬の素質を見抜き、その人間性を掘り起こした指導者がいた事は余り知られておりません。

原敬が幼少のころ戊辰戦争があり、そのとき藩内の意見は時勢を読む薩長派（東中務）と、徳川への恩義を重んじる武士道派（榎山佐渡）に分かれていましたが、筆頭家老の榎山佐渡の意見で南部藩は徳川につき、最後まで戦いましたが遂には敗れて薩長から賊軍の汚名を着せられたわけです。

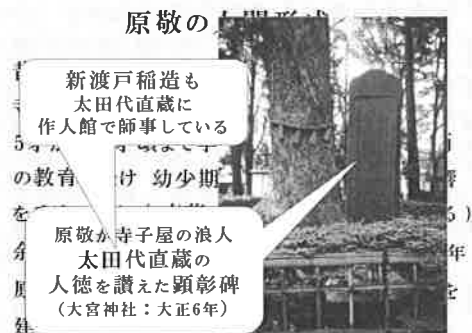
戦争終結後、敗れた南部藩の全責任を負い榎山佐渡が刎首の刑で報恩寺で処刑されましたが、その時未だ若干十二歳の原敬が榎山佐渡が刎首の刑で切腹をさせられたことを悔しがり、山門の前で

必ずや賊軍の汚名を晴らすことを自らに誓ったのでした。

武士としての武士道を重んじた佐渡と、賊軍の汚名を晴らす事を誓った若干十二歳の原敬、誰がそうさせたのか、そこには南部藩（歴代藩主）の日常の生活が武士の道を育ててきており、信義・徳・恩義などを重んじてきた南部藩の長年の伝統によると考えられます。

原敬よりも六歳下の新渡戸稲造の著書「武士道」（明治33）は、南部藩での常日頃の躰けられた「心構え」を書いたものでしたが、それが図らずも世界的に「武士道」と言うかたちで受け入れられて、今持って世界中の人から隠れたベストセラーとして読まれているわけです。

話は戻りますが何故未だ十二歳の原敬が榎山佐渡の切腹の時に、その汚名を晴らす事を誓うまでに至ったのか、原敬の人間性にもよるものではあるが、陰には原敬を教育してその人間性を掘り起こした先人がいた事を忘れてはならないと思います。



原敬自身は優れた立派な人物である事は言うまでも無い事ですが、原敬が5・6歳頃から10歳の頃までの幼少期に人間形成で非常に影響を受けた

人が本宮におりました。

原敬が幼いころ屋敷から西の方に二三百メートル行った所に太田代直蔵という人格の優れた浪人が居り、寺子屋を開いて子供たちに学問を教えておりましたが、原敬はその寺子屋で直蔵の指導を受けて、その真面目な人格に触れ直蔵の指導で大きな影響をうけたと言われております。直蔵は藩校作人館でも指導をしており、年代的には新渡戸稲造も直蔵の指導を受けたものと考えられます。

成人後も原敬は直蔵を尊敬してやまず総理になる直前に直蔵の人柄を忍んで顕彰碑を建てております。

大宮神社に原敬が建てた顕彰碑がこれです・・・石碑の表題は43代南部利淳の筆です。



原敬は南部藩家老の家柄の家柄に生まれております。

27歳の時に14歳年下の滋賀県知事の娘貞子と結婚しますが、後に離婚（原敬50歳）します。妻貞子が今でいう不倫をして他人の子を作るわけですが、原敬は多忙で夫婦生活を送れなかったことを反省し、相手の子に養育費を送っています。今の私たちの考えからすれば到底及びもつかない事だと思います。

大正7年に総理大臣に就任しますが、超然主義内閣から…（藩閥、貴族、官僚からなる内閣（所謂元老）で天皇が任命する）…から政党内閣に政治を変えた偉大な政治家です。

政友会…日本最初の政党で1900年（明治33）に伊藤博文が結成し1939（昭和15）解散された後に同友会となり（今の）自由民主党政友会第3代総裁となります。

作人館で学び、のちに上京し共慣義塾でも学んでおりますが学資がなくなって退学し、その後明治9年司法学校に2番で入学しております。しかし寄宿舎待遇改善運動を起こして退学処分されております。

その後外務省に入り陸奥宗光の引き立てで外務大臣に任命されてから力を発揮し、明治33年政友会幹事長、明治35年第7回衆議院選挙で盛岡か

ら立候補して当選し、39年西園寺内閣で内務大臣となり政友会の基盤を作っています。

大正7年（1918）にシベリヤ出兵で失敗した西園寺内閣総辞職に伴い、原敬が初めて政友会党首としての原内閣が誕生して本格的な政党政治の運びとなります。



原敬が12歳の時に戊辰戦争がありました。

戊辰戦争とは百五十年ほど前に徳川幕府と、それと対立した薩摩・長州・土佐・肥前など西方の藩との間で日本を二分した大きな争いですが、南部藩は徳川方として戦い最後には負けてしまいましたが、薩摩長州に対して最後まで抵抗したため、彼らから最後の賊軍と蔑みを受けております。

しかし賊軍とは「朝廷に反逆すること」であり、戊辰戦争は薩摩長州などの西軍と徳川幕府側の戦いで、天皇に弓を引いた戦いでなかったにも拘わらず、薩長から賊軍と蔑（さげすめ）られた事でした。

敗れた南部藩は、主席家老の榎山佐渡が薩摩長州等西軍から刎首の刑を言い渡されて、報恩寺で切腹しております。

当時、原家は藩の要職にあり榎山家とも交流があり、原敬は榎山佐渡を叔父のように慕っており、佐渡切腹の日には報恩寺の前で固唾をのんで佐渡の死を目前にして悔し涙を流し山門の前を行き来していたと言われております。原敬はその悔しさを生涯忘れないで生きておりました。報恩寺で佐渡を介錯したのは佐渡の高弟江釣子源吉でした。（榎山佐渡…戸田一心流師範 江釣子源吉は佐渡の高弟です）

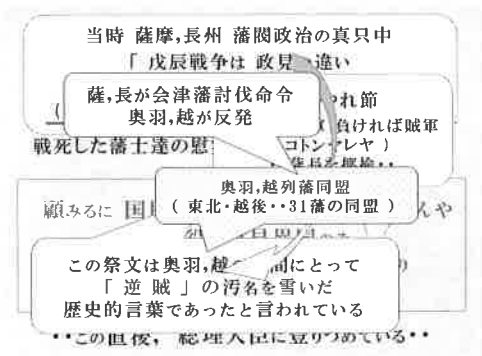
何故、南部藩が最後の賊軍と蔑められながらも薩摩・長州などと戦ったかと言うと、戊辰戦争での鳥羽伏見の戦い直後に、佐渡は京都で西郷隆盛と会談をしております。その時の会談で西郷の言動を見て、薩摩や長州は天皇を利用して「自分たちの藩閥政治」を目論んでいることを見抜き、彼らに不信感を持って盛岡に帰っております。

余り公にはなっておりませんが、明治天皇の父親の孝明天皇は薩長方に毒殺されたとも言われており（薩摩、長州と公家の岩倉具視）、若年の皇

太子明治天皇が、薩摩・長州側に担ぎ出され佐幕徳川方を賊軍と言うように仕向けられたといわれております。

京都から帰った佐渡は御前会議を行い西郷隆盛との会談などを報告しております。御前会議では時勢を読み薩摩・長州に従った方が良いのではないかという意見（東中務）もあったけれども、長年徳川の恩義受けた南部藩は佐渡の意見に従い幕府側について東北の諸藩と共に戊辰戦争に突入して最後まで戦ったわけです。

（敗れた盛岡には薩摩、長州などの西軍が入って来ております。南部領は薩摩、長州軍に占領され南部藩の土地は取り上げられて戸田藩・真田藩・大関藩に配分された事もあったのです。）



原敬が未だ総理大臣になる一年前の大正6年に、原敬が主宰して戊辰戦争50回忌の慰霊祭を北山法恩寺で行い、そこで自ら祭文を読んでおります。その中身は「顧みるに 国民誰か朝廷に弓ひくものあらんや 戊辰戦争は政権異同のみ勝てば官軍負ければ賊軍との俗謡あり 国民聖明の事実を語るものなり 以って諸子暝すべし」

大正6年9月8日に総理になる直前に盛岡報恩寺で行われた戊辰戦争殉難者50年祭において、政友会総裁の原敬の祭文です。

先に説明したように南部藩は、奥羽越列藩同盟で最後まで抵抗者したため賊軍の汚名を着せられ、多くの犠牲者を出して降伏し、筆頭家老の楢山佐渡が責任を一身に背負い切腹してります。

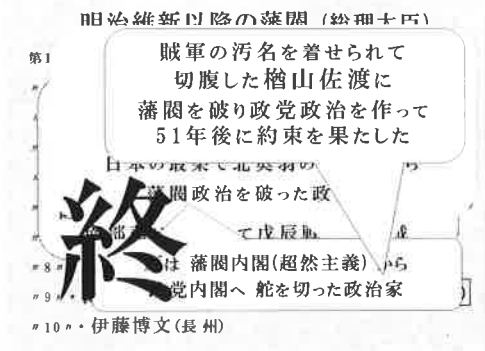
戊辰戦争50回忌で原敬は政友会総裁でありながら（当時政友会には薩長の重鎮が居たにも関わらず）、南部藩の一家臣として祭文を読み、戊辰戦争は「政見の異同である」と明確に宣言し、薩長に対して敗北者としての「賊軍」汚名を拭い去り、その冤（恨み）をそそいだわけです。…総理大臣就任1年前のことでした。

くどくなりますが当時の政府は薩摩、長州による藩閥政治が何代（18代）にも続いて行われており、その真只中で堂々と祭文を読み、薩摩・長州西軍に対して賊軍の汚名と怨念を晴らしたわけでした。この言葉は奥羽、越の人達には歴史的意味

を持つもので、この言葉により南部藩だけではなく新政府軍と戦って敗れた奥羽越諸藩全体の「逆賊」という汚名を雪ぐ歴史的な言葉になったからです。

戊辰戦争は薩摩長州の藩閥政治の始まりであり…戊辰戦争終了後に薩摩長州は靖国神社を建てましたが、祭られたのは薩摩・長州の戦死者だけで、徳川側の戦死者は祭られては居りません。勿論南部藩の戦死者は祭られてはいないのです。

南部さんが靖国神社の宮司を要請されたときに中々受託しなかったのはその為で…最後は昭和天皇から「南部頼むよ」と言われて漸く受託したのはその為でした。



戊辰戦争が終わった明治維新以降の当時の歴代の総理大臣です。

これを見れば明治・大正時代にかけて約60年間の18代にもわたり全ての総理が薩摩、長州、肥前など戊辰戦争で勝利した西軍で占められており、藩閥政治（超然主義）が繰り返されて来ていたのでした。

…まさしく戊辰戦争のときに楢山佐渡が予言が的中して藩閥政治が続いていたのです。

しかし其の藩閥政治が大正7年に米騒動がおきて対応を誤った寺内内閣が総辞職に追い込まれたときに、政友会総裁の原敬は時の長老山縣有朋の長州藩閥の支配に圧力（群制廃止）をかけて、遂には山縣有朋も政友会総裁の原敬を認めざるを得なくなり、後継首班に原敬を指名せざるを得なくなり日本に初めて本格的政党内閣が誕生したのでした。

戊辰戦争の時、佐渡が京都で西郷隆盛と対談をしましたが、佐渡は薩・長が朝廷を利用して藩閥政治を狙っていることを見抜き、京都から帰盛後の藩主御前会議で藩が時勢を読んで薩長に与するか（東中務）、長年の徳川への恩義を盡すか（楢山佐渡）迷ったときに、佐渡は敗戦を覚悟しつつも薩長の藩閥に反対して恩義のある徳川についての武士道精神が、原敬をして初めて日本に政党政治を生んだのでした。

年次総会

「次年度理事・役員について」



西島光茂次期会長

2019-2020 盛岡 RC ・ 理事及び役員

会長	西島光茂
副会長	熊谷隆司
副会長	飯塚 肇
次期会長	米内 正
直前会長	坂本広行
クラブ奉仕委員長	藤村吉隆
職業奉仕委員長	佐々木憲明
社会奉仕委員長	荒川鉄平
国際奉仕委員長	岡本 弥
青少年奉仕委員長	工藤幸一
創立80周年記念事業実行委員長	白石 茂

幹事	勝 雅行
副幹事	大平騰一
副幹事	畠山将樹
S A A	佐藤義正
副S A A	駒木 進
副S A A	海野 尚
副S A A	西館政美
副S A A	正司園祐司
副S A A	吉田明弘
会計	星 克彦
副会計	川村勝浩

例会報告

第21回例会  
平成30年12月14日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 坂本広行会長
- ・ロータリーソング (我らの生業)
- ・四つのテスト斉唱
- ・ゲスト 下山 寛様 (会友)
- ・会長報告 坂本広行会長

- ・結婚祝 橋本孝史君
- ・幹事報告 藤村吉隆幹事
- ・委員会報告
- ・年次総会  
次年度理事・役員について  
西島光茂 次期会長

【ニコニコBOX】

◆坂本広行君…下山さん、とてもわかりやすく、また150年・100年

の節目の年の会友卓話でした。ありがとうございました。続きも楽しみにしております。

●メイクアップ

地区=田中・諏訪・大平君。  
水沢東R.C.=長澤君。  
クラブ委員会=砂子田・三田・岡村・坂本・佐藤(仁)君

出席報告

会員数/77名

出席数/52名

出席率/70.27%

前々回/85.33%



プログラムのお知らせ

- ・1月18日(金) 会員卓話 坂本広行会員 「己亥(つちのとい)」にまつわる話
- 25日(金) 新入会員卓話 菅原浩幸会員
- ・2月1日(金) 新入会員卓話 田村賢一会員
- 8日(金) 第3回クラブアッセンブリー
- 15日(金) 会員卓話 佐藤重昭会員
- 23日(出) 創立80周年記念式典 (22日例会変更)

●本号編集担当/工藤 幸一